

生徒の幸福のため 教育現場で全力を尽くす

山口県立萩高等学校
社会科教師

南伸一 さん
創価大学教育学部卒業

創立四〇周年目を迎え、司法試験をはじめ公認会計士、税理士など各種資格試験に強い大学として知られる創価大学は、教員採用試験でも毎年三〇〇名、のべ五四〇〇名を超える合格者を輩出している。教職員大学院を開校し、生徒の幸福を目的とする人間教育の教員養成は高い評価を得ている。

明治維新の震源地

山口。高杉晋作や久坂玄端らが松下村塾で学び、そして駆け抜けた山口県萩市の辻々には、大陸から寄せる日本海の波音が静かに漂っている。

県立萩高校の教諭、南伸一さんは言う。

「萩市の小学生は『松陰読本』で、その事跡を学んでいます。そして、今年が吉田松陰生誕一八〇周年にあたります。私は

大学時代、松陰と松下村塾の人々、とりわけ高杉晋作に興味をもち、卒論でも取り上げました」

南さんは、山口県下関に生まれ、豊浦高校を経て、創価大学教育学部に入學した。「小学校の担任の先生にはお世話になりました。思いやりのある教員にあこがれ、実績



のある創価大学を選びました。入学式のとぎ、創立者が話された『教育は私の最後の事業』との言葉に心を揺さぶられました」

そんな南さんの学生時代の一歩の思い出は、三年間をすごした寮生活だった。「何でも相談にのってもらった先輩や同輩たち。夜を徹し

松下村塾跡の前で

て語りあい、皆で滝山祭（寮祭）を企画・運営しました。私が、私塾という教育形態に興味をもったのも、そんな経験があったからです」

親身になって応援してくれた恩師や先輩たちにどうしたら恩を返せるかと考えていると、「後輩や教え子に、自分がしてもらったことと同じこ

とをしようか」と父親にアドバイスを受けた。「赴任校では問題を起こす生徒もいました。でも、学校をやめさせてはいけないと、自分にできることは何でもさせてもらいました。そして、なんとかこぎつけた卒業式の日には、『先生、ありがとう』と満面の笑みを浮かべてくれた彼の一言には本当に感激しました。その生徒の笑顔が自分の原点になっています。一人ひとりの生徒と真直面で向き合っている教師でいたいと思います」

子どもたちの無限の可能性を信じて価値を創造する——創価教育の原点、『創価教育学体系』を牧口常三郎先生が著わしたのは、今からちょうど八〇年前の一九三〇年十一月十八日のこと。その尊貴な志は多くの卒業生の心に受け継がれている。



Minami Shinichi

みなみ・しんいち／一九七四年山口県下関市に生まれる。小・中・高と下関市で過ごし、九二年創価大学教育学部教育学科に入學。九五年の教員採用試験に現役合格し、九六年四月、山口県萩工業高等学校に赴任。〇三年四月より山口県立萩高等学校に勤務。現在に至る。